

同郷スイスからパユ&ルツェルン・フェスティバル室内管弦楽団が遂に来日。 世界三大音楽祭オーケストラが奏でる、モーツアルトとベートーヴェンの至高の響き。

22歳でベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のオーディションに合格し、首席フルート奏者として30年以上にわたり第一線を走り続けるパユ。ソリストとしても、ダニエル・バレンボイム、サイモン・ラトル、ヤニック・ネゼ=セガンら世界的巨匠と共に演奏し、比類なき音樂性と卓越した技巧で聴衆を魅了。2009年にはフランス芸術文化勲章を受章、2024年にはデンマークのレオニー・ソニング音楽賞を受賞するなど、その活躍が国際的に認められ、高く評価されている。共演は伝統と革新を併せ持つ名門、ルツェルン・フェスティバル室内管弦楽団。マリア・ジョアン・ピリス、ミッシャ・マイスキーら名演奏家と共に演奏を重ね、ヨーロッパ最高峰と称されるルツェルン音楽祭を代表するアンサンブルとして多くの人々に知られている。創立当初からドイツ・グラモフォンに数々の名盤を残し、2025年に創立70周年を迎える。



© Fabrice Umiglia

「パガニーニの寵孫」と称賛されるコンサートマスター、ダニエル・ドッズが率いるスター集団との夢の邂逅!

ルツェルン・フェスティバル室内管弦楽団 *Festival Strings Lucerne*

1956年の創立。創設期はヴォルフガング・シュナイダー・ハン、ルドフ・バウムガルトナーによる弦楽アンサンブルとして活動し、バロックから現代まで幅広く室内オーケストラのレパートリーの拡大に大きく貢献している。2020年には五嶋みどりとベートーベン・アルバムをリリース。日本ツアーでは室内管弦楽団として特別編成で来日する。



ダニエル・ドッズ(リーダー)
Daniel Dodds

ルツェルン・フェスティバル室内管弦楽団芸術監督。2000年よりコンサートマスターを務め、2012年より芸術監督に就任。ソリストとしてズービン・メータ、ウラディーミル・アシケナージなどと共演。現在、ルツェルン音楽祭のソリストおよび芸術監督や客演コンサートマスターとして活躍している。



エマニュエル・パユ(フルート)
Emmanuel Pahud

6歳でフルートを始め、パリ国立高等音楽院でデボスト、マリオン、ラルデ、アルトーに師事、同音楽院卒業後はバーゼルのニコレの下で研鑽を積んだ。1989年神戸国際フルートコンクール第1位、92年ジュネーヴ国際音楽コンクール第1位を獲得。1993年ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席奏者に就任。ソリストとして、これまでアバド、アントニーニ、バレンボイム、ブーレーズ、ハーディング、P.ヤルヴィ、マゼール、ネゼ=セガンをはじめとする巨匠のもと世界の名だたるオーケストラと共に演奏。また、ル・サージュ、バックス、ブロンフマン、グリモー、コヴァセヴィッチといったピアニストとリサイタルを行う。日本ではリサイタルの他、N響、読響、大フィル、札響を含むオーケストラとの共演、アンサンブル公演、またマスタークラスも行っている。録音ではワーナー・クラシックスと専属契約を結び、数多くのCDをリリース。

© Denis Felix